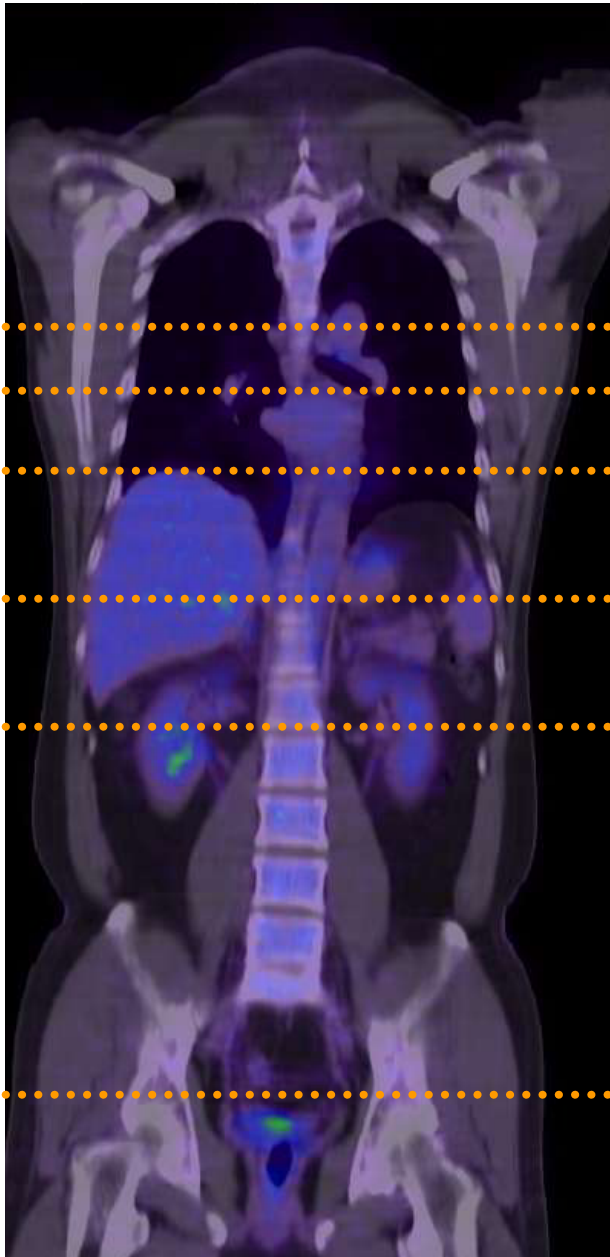


Fusion Colonal 画像

体を前から後ろに5mm程度で観察した画像でCT画像とPET画像を重ね合わせてます。
下記各部位の断面図、CT画像Fusion画像を簡単に説明します。



1 胸部大動脈弓

2 気管分岐部

3 心室

4 肝臓・脾臓

5 腎臓

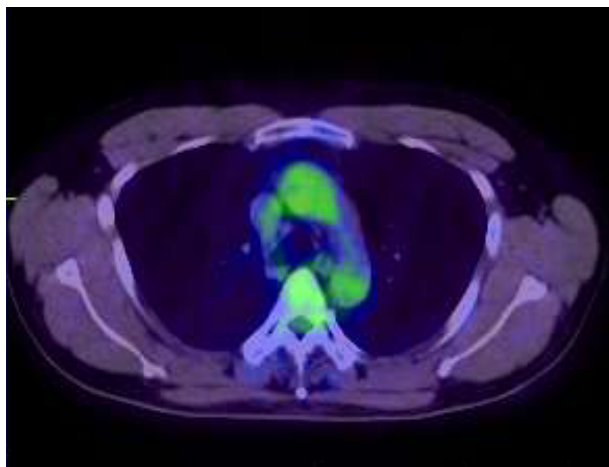
6 膀胱

1 胸部大動脈弓



■CT画像

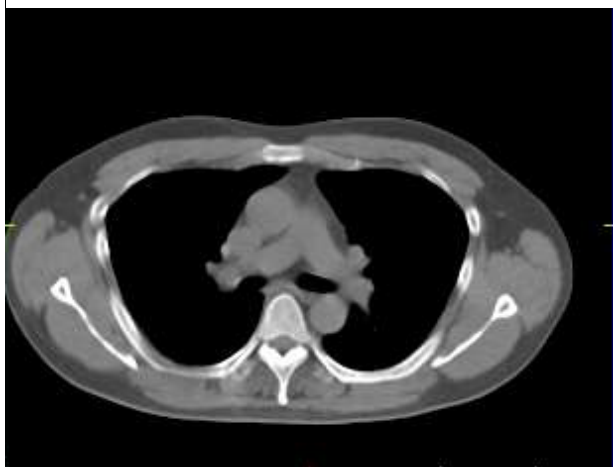
CT画像で黒く見える部分は空気の含有量が多く、白い部分は固い成分が多く含まれます。この位置では両肺が黒く、肋骨、肩甲骨が白く見えます。



■PET-CT画像

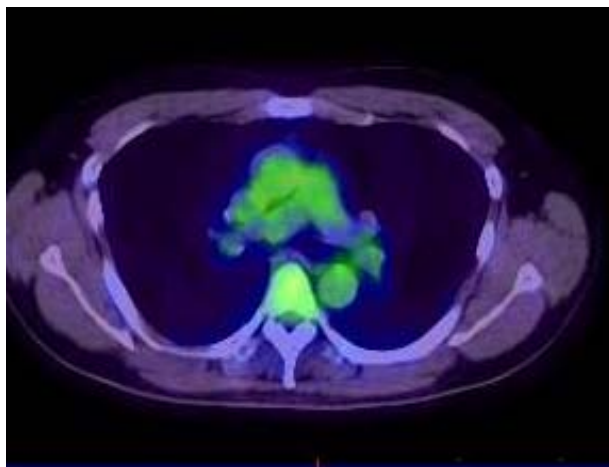
Fusion画像は青から赤の色分けにより、薬の集積の強さをみていますが、赤く表示される部分は脳、心臓、腎臓、膀胱などで、他の部分は青から淡い緑で表示されます。

2 気管分岐部



■CT画像

両気管支が左右に分かれていく部分が黒く写っています。肋骨、肩甲骨、背骨(胸椎)が白く見えます。



■PET-CT画像

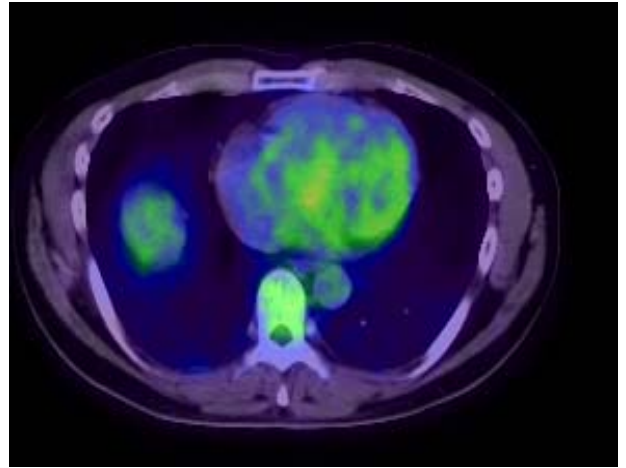
ここでも、やはり青から緑に表示され正常例を示しています。どのレベルでもいえることですが、黄色から赤く表示されたからといって癌と決められるものでもありません。良性疾患でも、強い薬の集積は見られません。

3 心室



■CT画像

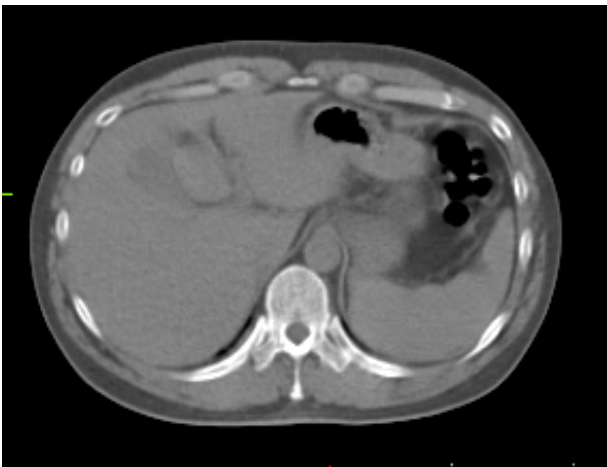
両肩の肩甲骨がみえなくなり、心臓のレベルまで下がった画像です。左側には肝臓の一部が確認できる位置です。



■PET-CT画像

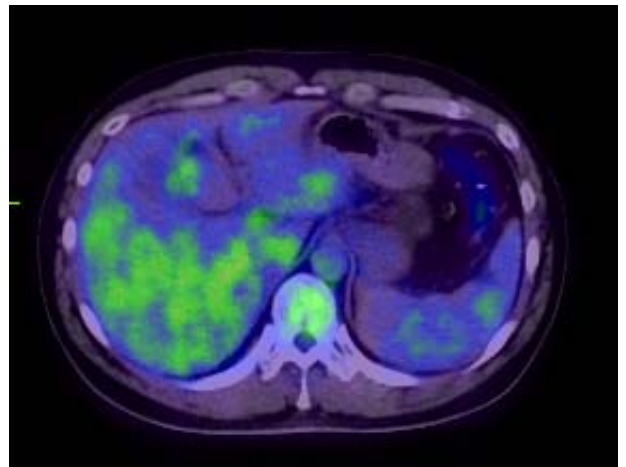
心臓の筋肉には栄養素を必要とするため注射した薬剤が多く集まり、円状・楕円状に赤く集積を示します。この画像では薬の取り込みが多くはありませんが、正常例です。

4 肝臓・脾臓



■CT画像

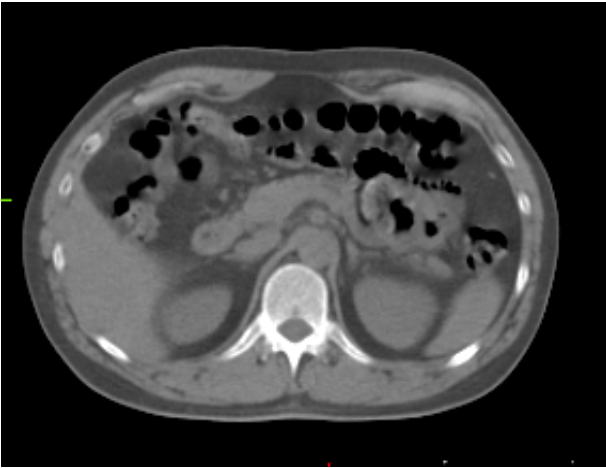
左側に大きな肝臓と右側下方に脾臓の一部が見えるレベルです。脾臓の上には空気を含んだ、胃・腸管も確認できます。



■PET-CT画像

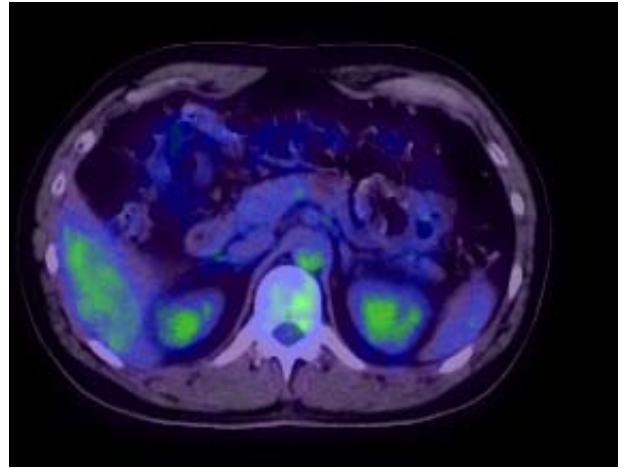
このレベルでも赤く表示される臓器はあまり見受けられません。肝臓、脾臓ともに青から緑色に表示されるのが一般的です。

5 腎臓



■CT画像

肝臓の一部から両側に丸みを帯びた腎臓が写るレベルです。腰椎の上には、脾臓も確認できます。



■PET-CT画像

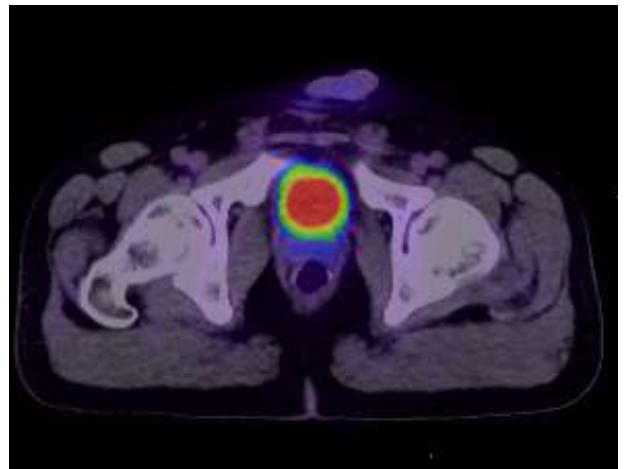
投与した薬剤は最終的に尿となって対外に排泄されるため、腎臓では集積が強く黄色から赤く表示されていることが多いです。

6 膀胱



■CT画像

両側に白い股関節と中央に灰色の膀胱、黒い直腸が写っています。灰色の部分でも色が異なるのはX線による吸収差を意味しています。体表面を覆う灰色は脂肪、そして内側に筋肉も観察できます。



■PET-CT画像

膀胱には尿に移行した薬剤が溜まっているため、赤く強い集積を示します。このレベルに限ったことではありませんが、腸液、便なども黄色から赤く表示されることがあります。